（様式1）

令和4年度　学校評価結果報告書（高等学校用）

学校整理番号	12
学 校 名	青森県立八戸北高等学校
全日制の課程	

自己評価実施日	令和　5年　1月　27日（金）
学校関係者評価実施日	令和　5年　2月　16日（木）

（1）学校教育目標	1　めざす生徒像 ・好奇心を大切にし、個性を生かして、自ら考え探究する生徒 ・しなやかな心で、自己の可能性を信じ、目標に向かって挑戦する生徒 ・思いやりを持ち、互いに支え合い学び合いながら、社会に貢献できる生徒 2　めざす教師像 ・生徒の学ぶ意欲に応え、常に学び続け、生徒の可能性を引き出し伸ばす教師 ・信頼関係を大切にし、生徒に寄り添い、ともに歩んでいく教師 ・教職員が一丸となり、保護者・地域社会とともに生徒を育てる教師
（2）現状と課題	1 「進学重視型の単位制高校」である本校は、大学を含む上級学校進学率が90パーセントを超えており、地域社会を牽引するリーダーの育成や医師不足の解消など、青森県の抱える課題克服のため、難関大学や医学部への進学者を増やすことが期待されている。また、生徒のニーズに応じた多様な選択科目を設定した教育課程の編成と習熟度別授業やティームティーチングなど、きめ細かな学習指導の充実が求められている。 2 悩み事や困り事を抱える生徒に対して、個別の教育支援計画や個別の指導計画を作成し、具体的で組織的支援をはかる必要がある。

（9）−イ　学校関係者評価委員会の構成
学校評議員　４名、保護者代表　４名　計　８名

（3）重点目標	1　大学進学の数値目標は、国公立大医学科2、難関大15、国公立大120とする。達成に向けて、一般選抜の他、総合型選抜・学校推薦型選抜にも積極的に対応する。
	2　個々の生徒に応じた指導をきめ細かに行い、一人一人に自己存在感を与える。
	3　生徒が教え合い・学び合う環境を醸成し、自ら学ぶ意欲を涵養する。
	4　生徒の動態・心身の状態を常に把握する。
	5　授業力、進路指導力、生徒指導力を高める。
	6　授業空間及び時間を大事に扱う。

（4）結果の公表	学校ホームページで公開する。

自　己　評　価					学校関係者評価	（10）次年度への課題と改善策
番号	（5）評価項目	（6）具体的方策	（7）具体的方策による目標の達成状況	（8）目標の達成度	（9）−ア　学校関係者からの意見・要望・評価等	
1	大学進学の数値目標達成に向けた積極的な対応	・難関大プロジェクトの充実 ・探究型授業の推進 ・進学実績の向上 ・共通テスト、総合型選抜・学校推薦型選抜への対応 ・生徒・保護者への進路情報の提供	・各年次の相応時期において、生徒へ系統的な進路指導ができた。 ・総合的な探究の時間は全教員で指導にあたった。 ・生徒への情報提供は十分であった。	B	・生徒の進学意欲の向上のために、大学のオープンキャンパスへの参加や、難関大学等の学校見学を積極的に実施すべきである。 ・３年次の担当はもちろん、それ以外の先生方も進路指導・受験指導に協力的で、適切な進路情報も提供されていた。	・総合的な探究の時間に導入する新教材の活用について、研修会を開催して教員の共通理解を図る。 ・学校HPの更新を適時的に行い、保護者への進路情報の発信を積極的に行う。
2	個々の生徒に応じたきめ細かな指導	・「生徒指導の三機能」を踏まえた生徒へのアプローチ ・習熟度別授業やTT等によるきめ細かな指導 ・個別面談の充実 ・共通テストへの対応、大学受験を見据えた指導計画の作成及び実行	・学校行事等での活躍の場の設定と適正な評価により、生徒の自己存在感の育成につなげた。 ・生徒の習熟度による展開授業を多くの教科で実施した。 ・個別面談を計画的に実施し、生徒理解に努めた。	A	・コロナ禍で学校行事の運営が困難な状況もあったが、修学旅行など、困難な状況でも様々な工夫で実施できたことを高く評価している。 ・習熟度授業を複数の教科で実施し成果を上げており、生徒の学習意欲の向上にもつなげている。	・教員の仕事量の偏重がないよう、業務の効率化、平準化をこれまで以上に進める。 ・進路シラバスの改善を進め、３年間、各年次の相応の時期のやるべきことや目標がより明確になるようにする。

3	生徒が教え合い・学び合う環境の醸成及び、自ら学ぶ意欲の涵養	・挨拶の励行、遅刻への意識、自己確立、他者尊重 ・自学力を高める日常的かつ積極的な働きかけ ・読書の奨励 ・人としてのあり方、生き方についての指導	・定期的な挨拶運動のほか、日常的な励行で習慣化を促した。 ・ICTの活用による興味関心の伸長と授業の高効率化を進めた。 ・学習法の指導、情報提供を継続し、自学力の向上につなげた。 ・学習センターの充実に努め、読書及び学習の意欲を涵養した。	B	・学校評価アンケートの結果より、生徒の基本的生活習慣に関する評価の保護者の評価が高く、教職員の評価が低いのは、志が高い現れではないか。 ・ICTの活用は今後もどんどん進めていってほしい。 ・学習センターをはじめとする教育環境の充実・維持は素晴らしい。	・生徒自らが挨拶の大切さや校則等の意味を考える機会を設け、生徒が互いに啓発し合える環境作りを進める。 ・生徒の探究活動や小論文対策に書籍メディアが利用されるよう工夫や周知をしていく。
4	生徒の動態・心身の状態の常時把握	・生徒指導部を中心とした全校的な指導体制 ・いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応 ・健康の自己管理意識の育成 ・生徒の心的混乱への即時対応と適切な教育相談	・アセスの計画的な実施等によって情報を共有し、生徒理解を深めた。 ・各年次と分掌が連携し、また、定期的な生徒懇談を行うなどして、問題行動等の早期発見・早期対応にあたった。 ・年間を通じてスクールカウンセラー、メンタルコーチによる生徒の相談業務に計画的に取り組んだ。	A	・年次進行に伴って生徒の学校生活が充実したものになるよう、指導・支援を継続してほしい。 ・スクールカウンセラー・メンタルコーチの利用について、保護者への情報提供をこれまで以上に進めてほしい。	・いじめや不登校の未然防止、早期発見・早期対応について、アセスの結果やスクールカウンセラーの利用状況、面談内容等についての情報共有を教職員間で進める。 ・SNSの使用上の注意喚起を１年次の早期及び適時的に実施する。
5	授業力、進路指導力、生徒指導力の向上	・互いの授業力の向上・改善を図ることを目的とした教員相互の日常的な授業参観 ・時代に即した受験体制の推進 ・相互チェック体制の確立 ・平常時の危機管理（文書整理等、個人的かつ主観的「違和感」の日常的な相互開示）	・計画的に研究授業、互見授業の機会を設定し、教員の授業力向上につなげた。 ・日常から生徒観察の感性を磨くとともに、教職員間の情報共有によって問題行動等の未然防止に努めた。	A	・先生方の多忙感、負担感が増大しないよう、工夫した取り組みを進めてほしい。 ・コロナ禍で生徒が学校で活動する場面を目にする機会がほとんどなかったが、先生方の教科指導がとても丁寧で根気強く行われていると聞いている。	・研修の実施方法を工夫し、必要な教職員に充実した内容の研修が提供できるよう改善する。 ・定期的な教育支援委員会の開催を通じて、生徒情報を共有し、問題行動等の未然防止につなげる。
6	授業空間及び時間の重用	・教室内を中心とする学習環境の徹底整備 ・保護者・地域・外郭団体に開かれた透明性を確保した学校づくりと説明責任 ・学校Webページ、学校新聞、年次通信等よる積極的な情報発信	・毎日の清掃、計画的な環境整備によって、適切な学習環境の維持に努めた。 ・インターネット及び紙媒体での情報発信を適宜実施し、保護者・地域・外学団体からの学校理解につなげた。	A	・情報提供について、紙媒体のものは生徒から保護者に伝わっていないケースも多いようである。したがって、学校HPやSNS等も利用するなど、確実に伝わる工夫が必要だ。	・重要な情報の確実な伝達手段の構築が必要で、紙媒体と電子メディアを複合的に検討し、実施していく。 ・情報発信をこれまで以上に重要視し、積極的に推進する。

（11）総括	めざす生徒像、めざす教師像の達成を目標とし、互いに支え合い学び合う中で相互に成長していくことを目指して、大学進学に向けた数値目標を掲げ、教育活動に取り組んだ。難関大プロジェクト等、計画的な学力向上プロセスで生徒を支援するなど、重点目標達成に向け教職員が一丸となって日々の業務に臨んだ。学校生活の中で変化していく生徒の動態・心身の状態について、情報共有を図り組織で対応していくため教育支援委員会を定期的に開催し、いじめ問題や不登校の未然防止、早期発見・早期対応に努めた。コロナ禍での学習機会を確保するため、ICT機器のハード・ソフト両面の整備と、活用するための教員研修を進め、日々の授業の充実化はもとよりオンライン授業に積極的に取り組んだ。